

2022 年度統計関連学会連合第 4 回理事会・組織委員会 議事録

日 時：2023 年 4 月 22 日（土）13:30 – 15:00

場 所：オンラインにより実施

出席者

【2022 年度学会連合理事】

応用統計学会	瀬尾 隆, 渡辺 美智子
日本計算機統計学会	小木しのぶ, 山本義郎
日本計算機統計学会(2023 年度)	山本義郎, 渡辺敏彦
日本計量生物学会	松井茂之, 寒水孝司
日本計量生物学会(2023 年度)	服部 聡, 松井茂之
日本行動計量学会	狩野 裕, 岩崎 学
日本統計学会	樋口知之 (理事長), 大森裕浩
日本統計学会(2023 年度)	照井伸彦, 川崎能典
日本分類学会	宿久 洋, 富田 誠
日本分類学会(2023 年度)	宿久 洋, 中山厚穂

【連合大会実行委員会】

西山慶彦

【連合大会運営委員会】

竹内光悦, 藤木美江

【連合大会プログラム委員会】

橋口博樹, 地道正行

【JSD 編集委員長】

増田弘毅

幹事

阿部貴行, 大草孝介, 本橋永至

組織委員会・審議事項

1. 2023 年度連合大会運営方針について

西山実行委員長より、2023 年度統計関連学会連合大会の運営方針について次の通り報告がなされた。5 月 8 日に新型コロナウイルス感染症のカテゴリーが 2 類から 5 類に変更されることを前提に、マスク着用については、個人の主体的な選択を尊重し、着用は個人の判断に委ねることを基本とする。また、飲食を伴う懇親会等については、開催の制限は設けないが、参加者は飲食の場面では感染リスクが通常時より高まることを意識して行動するよう要請することとした。

2. 2023 年度連合大会 3 委員会における進捗状況について

橋口プログラム委員長より、2023 年度連合大会のプログラムについて報告がなされた。2023 年度は一般講演のみオンライン参加不可（対面のみ可）とし、他のセッションについては、オンライン参加可のハイブリッド形式で開催することが承認された。また、企画セッション、市民講演会、チュートリアルセミナー、プレナリーセッションの詳細について説明があった。

西山実行委員長より、連合大会の運営方針に準じて、会場の換気を定期的に行い、アルコール消毒液を準備する旨の説明がなされた。会場については、市民講演会とチュートリアルセミナーを定員 230 名の稲盛ホールにて開催することと、セッション会場、受付等会議室、懇親会場に使用する部屋割りについて報告がなされた。参加者の学内ネットワーク利用については、原則、eduroam を使用してもらうこととし、アカウントを持っていない人のために、100~200 名程度の visitor アカウントの申請を予定している。さらに、接続ができない場合に備えて、WiFi のレンタルも検討している。懇親会については、

国際交流ホールを使用し、事前申込みで80人を想定し、定員に達しない場合は当日申込み可とする。参加費は滋賀大学にて開催した時と同額に設定した。当日、受付デスクでの参加申込みは受け付けないが、オンライン参加申込み後に、自動チェックイン受付が可能であることが確認された。

西山実行委員長からの説明後、樋口理事長から、コンテンツの再利用のために、企画セッションの録画について提案があった。小木理事から、原則、対面にした理由について質問があり、ハイブリッドにすると現地に来なくなるのではないかと、ハイブリッドにするメリットがあまりないのではないかとという懸念が実行委員会であったこと、教室の使用料が高騰しているため、ハイブリッドにするとコストがかかることが主な理由であることが西山実行委員長から説明された。樋口理事長から、インバウンドの影響で宿を確保することが困難になる可能性があるため、学会員に対して、早めに宿を確保した方が良いという旨のアナウンスをするよう各学会に要請があった。渡辺（美）理事から、保育施設については、参加者各自で手配してもらい、予算の範囲内で補助すると良いのではという提案があり、承認された。

竹内運営委員長より、予算案については、昨年度の予算を踏襲するとの報告がなされた。ただし、今年度は、対面を主とするハイブリッド形式であること、京都開催なので旅費が比較的高めであること、全体的にコストが高騰していることから、例年よりも予算がかかるとの説明があった。特に、会場費が290万円程度かかるので、その額がそのまま赤字になっている。統計質保証推進協会からの援助については、予算案には入れず、60万円を目安に請求書を分割して先方に送付し、直接払ってもらうことを確認した。報告書をWeb化した場合のB案（紙の報告書は100部程度作成し、希望者に対して、通常の資料代で渡す）も提案され、審議の結果、B案で進めることが承認された。

3. 2024年度連合大会について

東京理科大学の瀬尾理事より、2024年度連合大会の会場として、東京理科大学神楽坂キャンパスでの開催を検討しているとの報告があり、大学の紹介後、実施体制、確保しているスペース、アピールポイントについて説明があった。また、完全対面ではなく、ハイブリッドでの開催を予定しているとの報告があり、審議の結果、2024年度は東京理科大学神楽坂キャンパスで開催することが承認された。

4. その他

なし

連合理事会・審議事項

1. 2022年度事業報告・会計報告について

阿部幹事より、2022年度に統計関連学会連合が実施した事業について、以下の通り説明があり、審議の結果、承認された。

- ・統計関連学会連合理事会・組織委員会の開催
- ・2022年度統計関連学会連合大会の開催
- ・Japanese Journal of Statistics and Data Science (JJSD) の発刊
- ・科学研究費補助事業令和元年度研究成果公開促進費（国際情報発信強化）採択に伴う措置
- ・統計質保証推進協会からの業務委託事業の実施
- ・各種事業への共催・後援・協賛

さらに、阿部幹事より、2022年度の会計報告について説明があり、審議の結果、承認された。また、岩崎理事から、次年度繰越金の額が多すぎるのも問題とのご指摘があった。

2. 2023年度事業計画について

阿部幹事より、2023年度の統計関連学会連合の事業計画（既に決定しているもの）について、以下の通り説明があり、審議の結果、承認された。

- ・統計関連学会連合理事会・組織委員会の開催
- ・2023年度統計関連学会連合大会の開催
- ・Japanese Journal of Statistics and Data Science (JJSD) の発刊
- ・事業委員会、統計教育推進委員会の開催
- ・統計質保証推進協会との研究推進
- ・各種事業への共催・後援・協賛

尚、樋口理事長から、「統計質保証推進協会との研究推進」については、委託事業から連合大会の一部費用を直接的に負担してもらうという形に変更されたので、「研究推進」という表現にしたとの旨の説明があった。

3. 赤池メモリアルレクチャーの運営方法について

樋口理事長より、「赤池メモリアルレクチャー賞に関する日本統計学会の役回りを統計関連学会連合に移管したい旨」を統計数理研究所に依頼するという提案がなされ承認された。

4. その他

なし

連合理事会・報告事項

1. JJSD の現状について

増田編集委員長より、JJSD の現状について次の報告がなされた。

- ・JJSD の編集委員体制
- ・JJSD の編集状況
- ・今後出版予定の JJSD 特集

2. 2023年度連合理事会・組織委員会の日程について

樋口理事長より、2023年度連合理事会組織委員会の通常開催時期が確認された。

3. 統計質保証推進協会との覚書の締結について

樋口理事長より、2023年3月22日(水)～24日(金)にかけて、統計質保証推進協会との覚書の締結についてメール審議を行い、異議無く覚書(案)が承認されたことを確認した。

4. 連合の渉外関係について

樋口理事長より、以下の団体との交流に関して報告がなされた。

- ・異分野異業種研究交流会
- ・統計関連学会連合・日本数学会・日本応用数理学会との交流会
- ・日本学術会議との窓口に関わる案件

5. 後援・協賛について

樋口理事長より、以下の後援・協賛について報告がなされた。

- ・日本学術会議数理科学委員会数学分科会、数理科学委員会 I MU分科会主催「数理科学の展望—国際的展開と諸科学・産業との連携拡大を探る」(2023年3月14日、日本学術会議講堂) 後援
- ・統計数理研究所主催「ROIS 産学連携・知的財産セミナー統計的因果推論入門：高度なデータサイエンスの手法が明らかにする「因果」についての新たな知見」(2023年3月10日、オンライン) 後援
- ・日本品質管理学会主催「第10回科学技術教育フォーラム」(2023年5月20日、オンライン) 協賛